

産総研東北 Newsletter No.19

独立行政法人 産業技術総合研究所 東北センター

東北サテライトを活用した新たな産学官連携推進への期待

独立行政法人産業技術総合研究所

理事（産学官連携推進部門担当） 一村 信吾

4月1日に産総研の産学官連携推進部門担当理事に就任致しました一村信吾です。本年2月中旬に研究現場から理事に急遽呼び出され、4月から産学官連携推進部門担当の重責を中島尚正理事から引き継ぐことになりました。就任直後の4月23日には、東北サテライトのオープン記念講演会に期を合わせて仙台を訪れ、東北サテライトと東北センターを核とする今後の産学官連携推進に大きな期待を抱いてつくばに戻ってきたところです。

私は東北センター（その前身の東北工業技術研究所）には少なからぬ縁があり、これまでも訪問の機会を得てきました。一度目は、電子技術総合研究所に就職した最初の直属の上司（小野雅敏・宇宙環境技術研究室長、後の極限技術部長）が東北工業技術研究所長として赴任された時です。秋保温泉で極限技術部関係者の忘年会を開くことになり、その途中で研究所を訪問させて頂きました。その後、独立行政法人化に際して設立準備本部が工技院に設置された際に、戦略企画調整チームのリーダーとしても何度か訪問の機会を得てきました。それらの時に、“施設が古く狭いのでは”、“仙台駅から少し遠くアクセスが悪いのでは”、という印象を持った記憶があります。

今回の仙台訪問に際して、私の古い印象は完全に払拭されました。4月23日には東北センターにも足を伸ばしましたが、新しい建物独特の臭いがまだ残る東北産学官連携研究棟（とうほくOSL）が、正面玄関からの印象を一新する形で出迎えてくれました。また、中小企業基盤整備機構との協同事業として展開した東北サテライトは、仙台市中心部からのアクセスの利便



一村理事

性を担保するものとなりました。加えて、東北各県の公設研ともTV会議設備でネットワークを組むことができ、多様なチャンネルでの東北地区との情報交流を担保できるものとなりました。

ご承知のように産総研は、「鈹工業の科学技術に関する研究および開発」を主たる業務とし、その業務に係わる「技術指導および成果の普及」を行うことが法律上要請されています。加えて、このたびの国会審議において、イノベーションによる生産性向上の観点から産業技術力強化法等の一部改正が審議され、その一環として産総研に、「技術経営力の強化に関する業務（人材養成、助言）」が追加される見通しとなりました。研究および開発の拠点となる東北センターに加えて、成果の普及に向けた情報共有の起点となる東北サテライトを有する利点を十分に活用して、様々な産学官連携・交流活動を通じた人材養成の観点でも、東北地区のお役に立てる組織になりたいと考えています。

関係の皆様方の、益々のご支援・ご協力をお願い申し上げますとともに、産総研を活用頂く立場から、忌憚のないご意見・ご要望をお寄せ頂ければ幸甚に存じます。

| | | | |
|--------------------------|---------------|--|---|
| C o n t e n t s : | ・ 巻頭言 | 「東北サテライトを活用した新たな産学官連携推進への期待」 産業技術総合研究所 理事 一村 信吾 | 1 |
| | ・ 特集「東北サテライト」 | 「地域拠点戦略構築に向けて」 産業技術総合研究所 理事 加藤 碩一 | 2 |
| | | 「東北サテライトの開設にあたって」 産業技術総合研究所東北センター所長 吉田 忠 | |
| | | 「東北サテライト開設のご挨拶」 中小企業基盤整備機構東北支部長 笠原 啓二 | 3 |
| | | 東北サテライトの概要 | 4 |
| | | 東北サテライトスタッフ紹介・オープン記念講演会 | 5 |
| | ・ 産技連活動報告 | 東北地域部会総会紹介 | 6 |
| | ・ イベント開催報告 | スプリングサイエンスキャンプ | 7 |
| | ・ インフォメーション | | 8 |

特集 東北サテライト

産総研東北センターは、中小企業基盤整備機構東北支部と協同して、今年4月に仙台市の中心部である青葉区一番町に「東北サテライト」を開設しました。ニュースレター19号では、技術開発や事業化に関する相談をワンストップサービスで提供する“見える産学官連携拠点”として期待される東北サテライトについて、特集で紹介いたします。

地域拠点戦略構築に向けて

独立行政法人産業技術総合研究所
理事（地域担当） 加藤 碩一

政府の方針として全独立行政法人の見直しが検討されようとし、また、現今の厳しい経済状況を踏まえて政府資産圧縮が進められる中、（実態上の困難さは別にして）研究の継続はつくばに集約すればできるとする見方（こうした見解は必ずしも産総研の肯んじがたいところではあるが）に対して現在の地域に設置される必要性は何かをより論理的実証的に説明する必要がある。また、産総研全体のリソースの最適配分を検討する中で地域拠点へのリソースの最適配分のあり方も検討されるべきである。

従前の議論は、地域拠点の存続を前提に議論を進めてきており、上記課題（地域拠点そもそも論）は別途論議検討されるべきであるとされてきたきらいがある。工技院時代から、さらに独法化にかけて何度となく検討され蒸し返されてきた議論であるが、具体的な対応を含めたさらなる説明責任を問われている現況を厳しく認識し、産総研全体の運営と合わせ早急なかつ中長期的観点からの対応を準備すべき時である。

地域拠点におけるリソースの右肩下がり低減傾向により組織維持のための必要最小限のリソースの確保さえ困難な状況にあり、これを放置することによって地域拠点における研究及び関連業務担当者らの士気やパフォーマンスの低下が懸念される。

一部を除いていわゆるNC化一研究拠点の特定分野への選択と集中一は進捗したが、地域における存在意義については、さらなる説明が要されよう。↗



加藤理事

そもそも先端分野技術・研究開発課題はグローバルなものであり、地域固有なものではないとして現状優位性を主張するだけでは十分理解されえないし、地域産業振興の観点からの中小企業の多様な要請に一地域拠点では応じきれない現状の改善策もあわせ検討されるべきであろう。

言い換えれば、産総研の地域戦略とは、産総研の経営戦略の中で地域センターは①どういう役割を持つのか、②どういう分野の研究を推進すべきか、③中・長期的な資源配分をどうすべきかを、期間、目標、体制を含めて明確にすることである。特に第3期中期計画において達成されるべき具体案が提言されるべきである。

東北センターが職員各位の一層のご努力により、上記課題において産総研モデルとなるべく進展することを強く期待する次第である。

東北サテライト オフィス紹介

入口扉を開けると、左手に産総研、正面奥に中小企業基盤整備機構の受付カウンターがあります。入口右手には産総研、公設研等のパンフレット類を用意しておりますので、ご自由にお持ちください。また、技術相談等には面談スペースで対応いたします。



受付カウンター



入口から見たオフィス



相談への対応

東北サテライトの開設にあたって

独立行政法人産業技術総合研究所

東北センター所長 吉田 忠

4月に、産総研は（独）中小企業基盤整備機構（以下、中小機構と略す）東北支部と協同して、「東北サテライト」を開設しました。地域における“見える産学官連携拠点”として、産総研の持つ技術開発ポテンシャルと中小機構の事業化支援ポテンシャルを活用した「技術開発から事業化まで」の一貫した支援と、東北6県の公設研とのネットワークを中心に据えた「広域連携による地域産業の活性化」支援を目指しています。東北地域の一層の産業活性化を図るには、東北を一つの地域として捉え、各地域の互いの強みを活かした広域連携の推進が今求められています。

産学官連携活動による事業化推進には、シーズから製品化まで技術を育てる、いわゆる「テクノインキュベーション」とも云えるプロセスが必要で、このプロセスには最初から製品化を目指す企業と事業化支援の専門家の参加が重要です。東北サテライトは、まさに技術を育て製品化や事業化を後押しするワンストップサービスを目指した連携拠点です。↑



吉田所長

一方、公設研は地域産業界に最も身近な存在で、地域の技術支援や情報発信の中核拠点として位置づけられます。したがって、公設研と有機的に連携しながら地域支援活動を行うのが最も効果的で現実的な方法です。

東北サテライトは、近く整備されるTV会議ネットワークを活用して東北6県の公設研との“ハブ機能”を果たすことで、東北各地域のニーズに対して質の高い、迅速なサービスを提供します。

東北サテライトは、産総研と中小機構、そして公設研が中心になって、これまでの産学官連携活動の質・量の飛躍的な強化を目指してスタートしました。皆さまの幅広いご利用、ご支援をお願い申し上げます。

東北サテライト開設のご挨拶

独立行政法人中小企業基盤整備機構

東北支部長 笠原 啓二

この度、「東北サテライト」が無事にオープンを迎えられましたことは、関係機関の皆様方のご支援ご協力によるものと深く感謝しております。誠にありがとうございました。

さて、私ども中小企業基盤整備機構（略称：中小機構）は平成16年7月に3法人の統合により、新たに独立行政法人としてスタートし3年目になります。これまでも「お客様重視」「地域重視」をスローガンに掲げ、全国に9つの支部を設置し、地域の最前線としてユーザーの身近なところで「中小企業と地域振興」をサポートしております。

また、当中小機構は国レベルとしては唯一の中小企業の支援機関であります。地域には地方自治体はじめ中小企業関係団体、地域の金融機関、地域の大学なども中小企業の支援を行っています。これら地方の支援機関とも連携をとりながら、支援機関の支援機関であるということ認識し、中小企業の立場に立ってバックアップを行うよう努めています。

そのような中で、中小機構東北支部は昨年度まで中小企業大学校の人材育成部門とそれ以外の各種事業部門の業務運営を別々の場所で分かれて実施しておりましたが、本年4月からは全ての事業部門を、仙台市青葉区落合にある中小企業大学校仙台校の施設に移転して、中小機構 ↑



笠原支部長

東北支部が持つ機能を集約し、より充実したサービスの提供をすることができるようになりました。また、お客様のご利用が多い「無の経営相談」「小規模企業共済制度、経営セーフティ共済制度の相談」「産業用地等の

商談」「各種セミナー」等は利便性を考慮して「東北サテライト」を独立行政法人産業技術総合研究所東北センター（略：産総研）との協同により設置いたしました。東北支部の総合窓口、インフォメーション機能として、中小企業の方々及び関係機関の皆様には、是非ご活用いただけますようお願いいたします。

この「東北サテライト」には産総研と地域の公設試験研究機関との間で、【TV会議システム】を設置されますが、東北支部といたしましてもそのシステム並びに産総研、公設研の幅広いネットワークを有効に活用し、中小企業・ベンチャー総合支援センターの業務など事業化支援の強みを活かし、これからも東北地域の中小企業をサポートして地域経済の活性化のために支援を行っていきたく考えています。

東北サテライトの概要

東北サテライトは、産総研東北センターと中小企業基盤整備機構東北支部が協同して、技術開発や事業化に関する相談をワンストップで提供する窓口です。東北6県の公設研や地域中堅企業を対象に技術開発から事業化まで一貫した支援を実施し、地域産業の活性化と新産業の創出を目指して、皆様のお手伝いをいたします。(図1)

サテライト内には、東北6県の公設研を繋ぐTV会議システムを設置し、東北地域の産学官連携活動のハブとしての機能を果たすため、広域連携の推進と各種プロジェクトや事業の促進に向けた支援を実施してまいります。このシステムを使って、技術シーズ紹介、技術・経営・制度相談、各種セミナーなど実施するとともに、つくばセンターを含む産総研9拠点を繋ぐオール産総研ネットワークを活用して、地域ニーズに積極的に応えてまいります。(図2)

東北サテライトでは、主に下記の業務を実施してまいります。

- 技術開発および事業化支援
- 特許等知的財産の相談と情報提供
- 各支援制度の情報提供
- 各種公開セミナーや勉強会の実施



【図1】東北サテライトの業務連携イメージ

【TV会議ネットワーク】

東北6県の公設試験研究機関、産総研つくば本部を結ぶ情報ネットワークによって、スピーディーに技術情報が利用できます。



【図2】TV会議ネットワークのイメージ(左)とTV会議の様子(右)

施設のご案内

情報の収集・交流に、ご利用いただけます。

【ご利用時間】
平日9:00～18:00
(土・日・祝祭日・年末年始は休み)

<施設・設備>
●オフィス ●面談ブース
●セミナー室 ●小会議室
●TV会議システム

TV会議室(小会議室)
東北6県の公設研とのTV会議や、少人数での会議にご利用いただけます。

セミナー室
40名程度の会議やセミナー、勉強会などにご利用いただけます。

面談ブース
少人数の打ち合わせやご相談などのためのブースです。

資料コーナー
いろいろな資料をご自由に閲覧していただけます。お持ち帰り資料もご提供します。

【連絡先】

〒980-0811
宮城県仙台市青葉区一番町4-7-17 小田急仙台ビル3F
TEL : 022-726-6030 FAX : 022-224-3425
E-Mail : asist@m.aist.go.jp

【アクセス】

- ・JR仙台駅から徒歩約15分
- ・仙台市営地下鉄南北線「勾当台公園駅」南3番出口から徒歩約1分



東北サテライト スタッフ紹介

東北サテライトでは、技術から事業化までのワンストップサービス相談窓口として、産総研と中小企業基盤整備機構が対応にあたっています。

ここではこの他に、技術開発プロジェクト支援、事業化支援のほか、人材育成・セミナー開催等も予定しています。

仙台市一番町四丁目というアクセスに恵まれた場所で、倉田、森、大柳の3名のスタッフが皆様のお越しをお待ちしています。



左から倉田、大柳、森

東北サテライト オープン記念講演会

産総研東北センターでは、去る4月23日（金）、三井アーバンホテル仙台にて、中小企業基盤整備機構（以下、中小機構と略す）東北支部との共催により「東北サテライト オープン記念講演会」を開催しました。本講演会は、東北サテライトのオープンを記念して、東北サテライトの事業等を広く紹介することを目的として開催したものです。

講演会は、東北経済産業局の長谷川英一局長及び東北経済連合会の三瓶光紀専務理事による来賓挨拶で始まり、続いて、産総研東北センターの吉田忠所長による東北サテライトの紹介、産総研の加藤碩一理事による講演「イノベーションに向けた産総研の取り組み」、中小機構の田村理事による講演「地域における中小機構の役割」が行われました。講演会の最後には、特別講演として、黒田精工株式会社の横田悦二郎顧問（アジア金型工業会名誉相談役）による講演「アジア地域における金型産業の将来予測と日本の対応」が行われました。

会場は、定員を大きく超える約200名の参加者による熱気に溢れていました。また、多くの報道機関が取材に訪れるなど、東北サテライトへの関心の高さがうかがわれました。

講演会終了後には交流会が行われ、東北サテライトのオープンを祝う華やかな雰囲気の中、多くの参加者が交流を深めていました。



サテライトの紹介をする吉田所長



講演する加藤理事（左）と田村理事（右）



特別講師の横田顧問



多数の参加者で満席となった講演会場（左、中）及び交流会の様子（右）

産技連・東北地域部会活動報告

東北サテライトに事務局を置く産業技術連携推進会議東北地域部会の活動について、今月号から連載で紹介いたします。

第1回は、4月23日（月）に東北サテライトを会場として行われた、東北地域部会総会、幹事会、5分科会について紹介いたします。

産業技術連携推進会議 東北地域部会 総会紹介

去る4月23日に産業技術連携推進会議（略称：産技連）東北地域部会総会（春季合同分科会本会議）が行われました。今年度は、産技連組織の見直しを契機に、各公設試験研究機関と産総研東北センターが、地域の中小企業支援や産業振興において、より一層積極的な役割を果たせるように組織体制の整備と運営方法の改善に重点を置き、東北6県の広域連携の強化を図るために、情報ネットワークを整備し、機動的かつ実効性のある産学官連携活動の推進を目指すことと致しました。

総会に先立ち、午前10時30分からは、食品・バイオ分科会（会長：青森県工業総合研究センター 市田 淳治 氏 会員数：59名）、情報・エレクトロニクス分科会（会長：福島県ハイテクプラザ 高橋 淳 氏 会員数：55名）、機械・金属分科会（会長：秋田県産業技術総合研究センター 進藤 亮悦 氏 会員数：65名）、資源・環境・エネルギー分科会（会長：浪崎 安治 氏 会員数：42名）、物質・材料・デザイン分科会（会長：山形県工業技術センター 山田 享 氏 会員数：68名）の5つの分科会が開かれました。機械・金属分科会からは、「航空宇宙産業研究会」の立ち上げが提案されるなど、短時間にもかかわらず活発な論議がなされ、平成19年～20年度に向けた分科会の活動目標及び活動計画を策定することができました。

午前11時30分からは、幹事会が開催され、幹事会の目的（東北地域部会の円滑な運営および発展に関して東北地域部会長を補佐する）、構成（東北6県公設研の所長・理事長及び産総研東北産学官連携センター長からなる）、開催回数（年2回程度の開催を行い、必要に応じてTV会議システムを活用する）及び幹事会を補佐するために企画調整担当者会議で具体化を図るなどについて、意見調整を行い、合意を得ました。また、「広域連携をどの

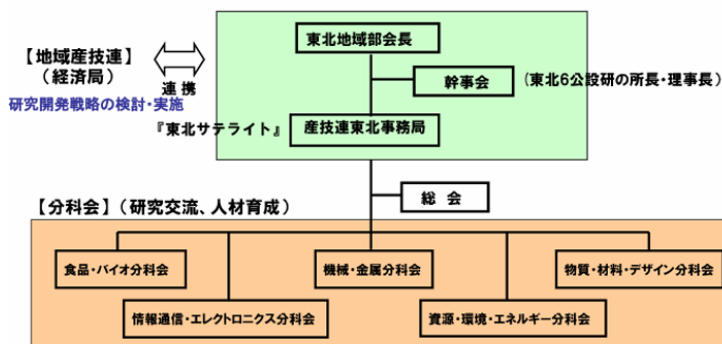
ように進めるか」についての意見交換も行き、試験機器の相互利用や若手研究者育成研修の実施に向けて企画調整担当者会議で具体化することにしました。なお、幹事会では、TV会議システムを使用し、岩手県工業技術センター、産総研東北センター、東北サテライトおよびNTTビズリンク（特別出演）での4元中継を行い、TV会議システムを活用することにより、機動的な会議が可能であることを出席者に示唆することができました。

午後1時～3時に総会が開催され、部会長に（独）産業技術総合研究所東北センターの吉田所長が選出されました。会議では、東北センター（事務局）から、平成19年度の東北地域部会の活動方針（基本方針及び重点活動）が説明され、質疑後、幹事会の新設、東北サテライトに東北地域部会の事務局を新設、2年任期の分科会会長・副会長、研究会の新設などの組織体制、情報ネットワークの整備（TV会議システムを活用した東北6県公設研の連携強化など）、会員登録者及び5分科会の活動方針・組織体制について承認されました。

なお、質疑では、従来と違う活発な分科会活動への取り組み方や知的財産権に関わるポテンシャルアップのための方策などについて意見が出され、これらについても企画調整担当者会議で検討し、早期実現を目指すことにしました。

新たな一歩を踏み出した東北地域部会、その事務局を東北サテライトが担うことに、東北6県公設研の期待が非常に大きいことを痛感した東北地域部会総会でした。

東北地域部会 組織運営図



拡大幹事会（上）及び分科会（下）の様子

イベント開催報告

スプリングサイエンスキャンプ

地球の診断

～仙台市郊外で地質の調査～

全国の高校生対象に、スプリングサイエンスキャンプ「地球の診断～仙台市郊外で地質の調査～」を2007年3月26日から28日にかけて実施しました。財団法人日本科学技術振興財団に共催する形で、東北産学官連携センターが企画段階から当日の運営までを行い、また、当日の講義や実習においては北海道産学官連携センター、地質情報研究部門、および加藤碩一理事の協力を得て実施しました。受講生は、男子5名と女子5名で、全国各地から集まり、学年も1年生から3年生まで多岐にわたりました。

3月26日の午後、受講生全員到着後、吉田忠東北産学官連携センター長の開講挨拶から始まり、引き続き、産総研の研究の概要紹介、特に環境負荷の小さい化学産業育成推進の研究に関してコンパクト化学プロセス研究センターの研究者から説明を受けました。受講生の緊張がまだ解けない中、東北大学環境科学研究科にバスで移動し、土屋範芳教授から同研究科の概要説明と研究室で行われている地殻流体の研究の最前線の紹介を行っていただきました。

仙台市郊外の秋保の宿に到着し、いよいよ地質調査特訓合宿が始まりました。夕食をとりながら自己紹介を行ったことにより、受講生の緊張もほどよく解れてきたようでした。夕食後は夜間の講義と実習です。所用で遅れ、なんとか夕食までに到着した加藤碩一理事から「宮沢賢治と地質学」の特別講演がありました。続いて岩石の分類の講義と実習を行いました(写真1)。



• 写真1 宿で岩石の分類法を学ぶ

翌27日は野外調査実習です(写真2)。名取川沿いに新第三系湯元層の凝灰岩、茂庭層の砂岩と礫岩、それらに貫入する安山岩などを観察し、スケッチマップに表現しました(写真3)。その後、バスで移動して白沢層のシルト岩や広瀬川沿いの段丘面を観察しました。野外調査にもほぼ慣れたところで、産業廃棄物の最終処分場を運営している仙台環境開発株式会社を訪問し、廃棄物発生 の現状や管理型最終処分場の現場見学を行いました。

宿に戻り、各自の調査データから地質平面図と地質断面の作成を行いました。夕食後は地質図の基礎と利用の講義と実習です。就寝前に、受講者と講師ともども各自の地元の地質現象の紹介を行いました。これによって、受講者は自分の身の回りの地質現象に興味を持つきっかけを得たようです。

28日は秋保周辺の活断層見学です。どのようにして活断層の活動周期を決定するかの説明を受けた後、受講生自ら露頭の断層面の構造を測定しました。その後、太白山自然の森観察センターで、同センターの概要紹介を受け、レンジャーの案内で森の自然観察を行いました。無機的な地質調査とは異なり、春の生き物の息吹を感じることができました。昼食も屋外でとり、春を満喫しました。昼食後、センターのセミナー室を借りて、修了証授与式を行い、今回のキャンプの全てのプログラムが終了しました。



• 写真2 名取川河床で地層の観察



• 写真3 クリノメーターの使い方実習

“平成19年度GIC総会および特別講演会を開催”

4月27日（金）午後1時30分から、メルパルク仙台にて、グリーンプロセスインキュベーションコンソーシアム（GIC）平成19年度総会および特別講演会が開催されました。

総会には75名の参加者があり、平成19年度の事業計画案、予算計画案について、審議・採択されました。

総会終了後には特別講演会が行われ、静岡大学名誉教授の上野晃文氏、大分大学教授の滝田祐作氏、昭和電工株式会社大分コンビナート技術開発部長の中條哲夫氏による講演に、参加者は熱心に聞き入っていました。また、講師と聴講者との間で、活発な質疑応答・意見交換が行われました。

なお、平成19年5月現在のGICの会員数は、シーズ会員A・27機関99名、シーズ会員B・5社13名、ニーズ会員・58社186名、特別会員11機関・45名の総計343名となっております。



総会の様子



特別講演後の質疑応答

報告 '07年4月～5月

- 4月 4日～6日 ・国際セラミックス総合展（東京ビッグサイト）
- 4月23日 ・平成19年度産業技術連携推進会議東北地域部会総会（産総研東北サテライト他）
- 4月23日 ・東北サテライトオープン記念講演会（三井アーバンホテル仙台）
- 4月27日 ・GIC平成19年度総会及び特別講演会（メルパルク仙台）
- 5月30日～6月1日 ・JPCA Show 2007（東京ビッグサイト）

スケジュール '07年6月～

- 6月13日 ・産総研一東北大学包括協定記念講演会（産総研つくばセンター）
- 6月16日～17日 ・第6回産学官連携推進会議展示会（国立京都国際会館）
- 6月19日 ・GIC第9回研修セミナー（産総研東北センター）
- 8月25日 ・産業技術総合研究所東北センター「一般公開」（産総研東北センター）

産総研東北 Newsletter No.19 平成19年5月発行

編集・発行 独立行政法人 産業技術総合研究所 東北センター
東北産学官連携センター 板橋 修・倉田良明・高橋裕平・庄司満春・佐藤麻樹

連絡先 〒983-8551 仙台市宮城野区苦竹4-2-1
TEL: 022-237-5218(直通) FAX: 022-231-1263
E-mail: t-koho@m.aist.go.jp URL: <http://unit.aist.go.jp/tohoku/>

*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。